はじめに

この講座では「事前課題小論文」の作成の際に注意したいポイントを学びます。
事前課題として小論文やレポートを課し、出願書類とともに提出したり、2次選考の材料として用いたりする大学があります。それは、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力を適切に評価するためです。例えば、次のような内容が求められます。

事例1

○ 上智大学　推薦入学試験（公募制）　レポート等特定課題

学科の指定する「レポート等特定課題」

1）下表にしたがって、学科の指定する「レポート等特定課題」を作成してください。
2）使用する用紙は各自で準備してください。
3）表題、氏名を1枚目の先頭に記入してください。

学　　科	レポート等特定課題	文字数、その他
神	あなたがキリスト教を学びたいと希望するに至った過程、キリスト教からどのようなことを学びたいと思っているかを述べなさい。	A4 用紙 1600 字前後・横書 ワープロ原稿不可（自筆）
哲	なぜ私は哲学を学ぶのか。	A4 原稿用紙（400 字詰）10 枚以内 （縦書・横書自由） ワープロ原稿不可（自筆）
史	＜課題図書＞ 網野善彦『日本の歴史をよみなおす（全）』（ちくま学芸文庫・2005 年）、 羽田正『東インド会社とアジアの海』（講談社学術文庫・2017 年）を読む。	レポート提出は不要。面接の際に、課題図書を素材として質問をするので、どちらか 1 冊を熟読しておくこと。
国　文	日本の古典文学（漢文学を含む）・近代文学の中からそれぞれ1作品を読み、自ら考えたことを作品に即して具体的に述べなさい。	B4 縦書原稿用紙(400 字詰) それぞれ 5 枚以上 （合計 10 枚以上）・縦書 ワープロ原稿不可（自筆）
英　文	英米文学作品をひとつ読み、特に印象に残った箇所を取り上げて、その理由を述べなさい。	A4 用紙・横書・MS 明朝体 10.5 ポイント （横 40 字×縦 30 行）4000 字程度 ワープロ原稿（手書き不可）
ドイツ文	ドイツ語圏の文学、芸術、思想、歴史において、あなたが興味をもっている事柄を挙げて論じなさい。	A4 用紙 2000 字～2400 字・横書 ワープロ原稿可
フランス文	＜課題図書＞ ジッド 作／山内義雄 訳　『狭き門』（新潮文庫）を読んでおくこと。	レポート提出は不要。学科ごとの個別テストの際に小論文が課されるので熟読のこと。
新　聞	最近の時事問題の中から関心をもったテーマを一つ選び、よく調べた上で、それに関する報道のあり方の点も含め、当該テーマについてのあなたの意見を述べなさい。 ※対象とした新聞記事、放送番組などについては、新聞紙名、局名・番組名、年月日等、参照した文献については、著者名、書名・論文名、出版社名、刊行年月等、その出典を明示すること。	A4 用紙 2000 字程度・横書 ワープロ原稿可
教　育	下記の指定図書のうち、いずれか1冊を選んで読み、本の内容の要約と内容に基づいて自ら考えたことを書きなさい。 ＜指定図書＞ アマルティア・セン、2006 年『人間の安全保障』 東郷えりか訳、集英社 木村元、2015 年『学校の戦後史』 岩波新書	A4 用紙 2000 字程度・横書 ワープロ原稿可
心　理	「自分にとって心理学を学ぶことの意味」を述べなさい。	A4 用紙1枚(1200 字程度、40 字×30 行)・横書 横書原稿用紙の場合 400 字詰 3 枚程度 ワープロ原稿可
社　会	あなたが関心のあるテーマについて書かれた社会学者の本（何冊でも可。ただし著者、書名等を明記すること）を読み、その内容に適宜言及しながら、あなた自身が社会学で何を、なぜ、どのように学びたいかについて述べなさい。	A4 用紙 2 枚程度・横書 ワープロ原稿（手書き不可）

事例2

○ 法政大学　文学部哲学科　グローバル体験公募推薦入学試験　日本語による小論文

【課題】あなた自身の海外体験をふまえて、異文化理解の難しさについて論じなさい。

事例3

○ 専修大学　経営学部ビジネスデザイン学科　公募制推薦入学試験　課題作文

以下を参照の上、黒のペンまたはボールペンで記述（自筆）してください。

マネー・ボールは、資金不足等から有力選手が獲得できず、チームとしての戦力の低下に苦しみ、成績も低迷状態にあった米国のある球団を舞台に、野球界の常識を覆す手法である科学的なアプローチを採用して改革を成し遂げた実話に基づく小説です。
皆さんが大学で学ぶ経営学の面白さや影響力を考えさせてくれる内容であるとともに、例えば部活や生徒会活動、さらに日々の学校生活に、マネー・ボールで描かれたような経営学的な考え方や手法を適用したならば、その活動や成果に影響を与えられるかもしれないという期待感も抱かせてくれる本であると思います。
そこで本書を読み、①特に興味を覚えた出来事とその理由、②もし本書で描かれたような科学的手法（例えば、セイバーメトリクス、勝つための戦略、統計手法）を適用したならば、あなた自身の経験や活動などを踏まえて、学校生活にどのような改革・改善ができただろうか、という二つの設問について考え、できるだけ具体的に自分の感想や提案などを1,000字以上1,200字以内で記述して下さい。

『マネー・ボール〔完全版〕』
マイケル・ルイス著　中山宥　訳
早川ノンフィクション文庫　2013年4月

○大学とは研究機関であるという前提に立つことが大事です。

そもそも「大学とはどういうところなのか」をおさらいします。大学は研究機関です。研究とは、世の中でわかっていないことや解き明かされていないことを、学問の力で解き明かす場所です。そして、大学教員の多くは研究者ですから、既知と未知の境目（最先端、フロンティア）に立ち、自らが積み重ねてきた学術の力を信じて、既知の領域を広げようと日々邁進しています。そして、その成果を世に発信し、いつか世界がより良い方向に進むよう願いながら、研究活動を行う存在です。

○大学教員は、真剣に学問と向き合う学生を探しています。

総合型選抜・学校推薦型選抜における試験官は「研究者としての眼差しを持つ」大学教員です。ということは、出願書類もその眼差しを持って評価されます。「大学に入学して学問に真剣に向き合ってくれるのだろうか」「学問の習得を通して世界に貢献できる人なのだろうか」「最先端（フロンティア）に立つ勇気を持ってくれているのだろうか」「大学入学までに（難しいのは承知しているけれど）最先端をのぞこうとしてくれているのだろうか」。こうした思いを持ちながら、素敵な受験生を探そうとしています。

○ 受験生も、真剣に学問を究めたいと願いましょう。

受験生も、大学が研究の場であるという前提に立つなら「私もこういった領域で活動して、問いを深めてきた」「私の領域での学術の最先端はおそらくこういったものだろう」「このような研究活動をしてみたい」という意志を持ち、試験の場で両者がコミュニケーションを交わすわけです。

ですから、総合型選抜・学校推薦型選抜は、大学側としては研究者としてのイニシエーション（通過儀礼）であり、受験生側としては自分が望む未来像に即した研究活動ができるかを確認するアグリーメント（合意・契約）の意味を持ちます。

○ この講座の目標は、あなたが「大学教育を受けることができる人物であることを、事前課題小論文の答案で表現できるようにすること」です。

この講座では大学での学びの前提となる文章読解と論述のテクニックを学び、あなたの答案をブラッシュアップすることを目的としています。ただし、出題の形式は各大学で異なりますので、適宜視聴する講義を選んで、必要な技術を手に入れてください。

その際、さまざまな関連書籍や論文に積極的に触れてください。事前課題小論文で頻出するテーマでポピュラーなのは、志望学部・学科に関連したテーマです。課題に取り組みながら、文献や資料に触れておくと、学部・学科での学びの先取りができます。つまり、大学としては、課題に取り組む中で、大学教育を受けるためにふさわしい力を身につけてほしいという意図が隠されています。

○事前課題小論文を通して、大学進学に対する情熱を育てましょう。

課題に取り組む中で、さまざまな文献に触れながら、学部・学科での学びに興味や関心を抱くきっかけを得ることになります。最初のうちは「この学部・学科で学べることは何か」と疑問を抱くことが多いかもしれませんが、課題に取り組んでいくうちに色々な学術用語を理解したり、概念がわかったりして、少しずつあなたの学びの世界がクリアになっていきます。その過程で「こういったことが問題なのではないか」「こうしたことを解決するにはどんな学問が必要か」「最先端の研究とは何か」といったことが見えてくるかもしれません。そうした問いに触れながら、これから学んでいこうとする学問への情熱を育めるといいですね。

では、講座で一緒に未来をつくりにいきましょう。私も応援しています。

神﨑 史彦

Contents

講	テキストページ数	動画 チャプター1	チャプター2	チャプター3	チャプター4
はじめに	1P				
Contents	5P				
本講座の受講の流れ	6P				
総合型選抜対策講座シリーズ受講の流れ	7P				
第1講 資料読解問題の対処法① 要約問題	9P – 16P	要約とは何か	要約の基本① 具体と抽象	要約の基本② 接続語の活用	要約の基本③ 字数調整
第2講 資料読解問題の対処法② 読解問題	17P – 26P	読解問題とは何か	読解問題の基本① 部分説明問題	読解問題の基本② 理由説明問題	読解問題の基本③ 字数調整
第3講 論述問題の対処法	27P – 34P	論述問題とは何か	論述問題の基本① 資料読解	論述問題の基本② 問題発生メカニズムの探索	論述問題の基本③ 答案の作成
第4講 表記・表現	35P – 46P	原稿用紙の使い方	表現・表記上の注意	段落の設定	引用の方法
おわりに	47P – 48P				
巻末資料 小論文ルーブリック	49P – 52P				

本講座の学習の流れ

第1講から第3講はこの講座のために作成したオリジナルの問題です。志望校からの課題（もしくは過去問）を分類すると、およそ3種類（要約、読解問題、論述問題）になると予想されます。課題（もしくは過去問）をもとに、どのパターンが課されているのかを把握し、視聴する講義を決めてください。したがって、全ての講座を見る必要はありません。

○第1講　資料読解問題のうち、要約が課されている場合
○第2講　資料読解問題のうち、読解問題が課されている場合
○第3講　論述問題が課されている場合

テキストにはあなたが考えた内容をまとめる欄がありますので、「授業でこんなテクニックを述べていたけれど、私ならどうするだろう」と思考を巡らせて、頭に浮かんだこと、調べたことを色々と書き記してみてください。それを材料にして他者と対話しながら、課題を形にすると効果的です。

また、巻末に小論文のルーブリックを掲載しています。これをもとに、あなたが作成した小論文やレポートがどの段階にあり、次の段階に進むためには何を修正・補正すればよいのかということを、修正したり他者と対話するときに活用してください。

加えて、第4講で小論文作成のときに表記・表現で気をつけたいことを解説します。講座を受講する前に、必ず視聴してください。

予習

POINT !
- この講座は予習不要です。

受講

POINT !
- 講義内でテクニックにかかわる解説を聞いたり、答案例を参考にしたりしながら、志望校の事前課題にどう向かえばいいのかを考えましょう。

受講後／復習

POINT !
- 受講した講義内容をもとに、志望校の事前課題に取り組んでください。
- 第3講（論述問題）については巻末のルーブリック（小論文）も活用してみましょう。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示しています。評価基準の文章と自分の答案を照らし合わせ、まずは「このあたりはできている（できていない）」という評価を自分なりにしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどういうことをする必要があるのかを考え、答案を修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

復習後

POINT !
- 作成した答案やルーブリックでの評価をもとに、学校の先生方などの指導を受けてみてください。そのさい、どういうところが気になるのか、修正しようとしているのか、その理由はなぜか、ということを共有できるように準備しておきましょう。そのうえで、修正を施しましょう。

総合型選抜対策講座シリーズ　受講の流れ

試験形式に関わらず、受講推奨	総合型選抜対策講座 <スタートアップ編>	総合型選抜とは何か、どんな事が求められるのかといった前提知識を学びたい時や、志望校や志望理由を決める時に迷っている場合におすすめです。
	総合型選抜対策講座 <出願書類作成編>	志望理由書、または自己アピール文を 書く際に必要な要素や考え方を学びたい時におすすめです。また、巻末資料に自己採点の参考になる評価基準も付いているので、書き上げた書類を見直す際にも参考にしてください。

↓

各自の試験形式に合わせて、必要な講座を選択した上での受講を推奨	総合型選抜対策講座 <事前課題型小論文編>	事前課題型小論文とは、事前課題として小論文やレポートを課し、出願書類とともに提出したり、2次選考の材料として用いられたりする形式です。作成の際に注意したいポイントを学びたい時におすすめです。
	総合型選抜対策講座 <面接編>	面接を受ける際の準備や心構え、頻出質問例などを学びたい時や、模試面接の様子から実際のイメージなどを持ちたい場合におすすめです。
	総合型選抜対策講座 <プレゼンテーション編>	プレゼンテーションを行う際の準備や心構え、表現方法例などを学びたい時や、模試プレゼンの様子から実際のイメージなどを持ちたい場合におすすめです。

第1講

資料読解問題の対処法① 要約問題

チャプター1 要約とは何か
チャプター2 要約の基本①具体と抽象
チャプター3 要約の基本②接続語の活用
チャプター4 要約の基本③字数調整

問題を見てみよう

資料を200字以内で要約してください。

一番強いチームが優勝するとは限らない

3月19日から始まるはずだった選抜高校野球大会。紫紺の優勝旗を巡る熱い戦いを楽しみにしていた人には寂しい春となってしまいました。

以前から「甲子園で優勝するのは一番強いチームではない」という話がささやかれてきました。たしかに、優勝候補の筆頭に挙がっていたチームが、あえなく敗退するのを何度も目にしてきました。下馬評が高いチームが必ずしも勝つわけではないようです。

では、どんなチームが優勝旗を手にすることができるのでしょうか。それは「一戦一戦、強くなっていくチーム」だと言われています。甲子園という大舞台に来てから、「どれくらい成長するか？」が優勝の鍵を握っているというのです。

ビジネスでもまったく同じことが言えるのではないでしょうか。

新しくプロジェクトを立ち上げるに当たって、どんな精鋭メンバーを集めても、どれだけ周到に準備を重ねても、思うように仕事は進んではくれません。予期せぬ出来事が勃発したり、思わぬところで行き違いが生まれたり。「まさか！」「そんなばかな」と思うような困難の連続に、チームが瓦解しそうになることもあります。

そんな危機をみんなで乗り越えていく過程で、新たなアイデアや仕事のやり方が生まれ、チームの結束も高まっていきます。まさにピンチはチャンス。学習を通じて持続的に成長していくチームこそが、挑戦的な目標を達成することができるのです。

大阪商人の創意工夫の秘訣とは？

こんなふうに、高校野球ひとつとってみても、私たちビジネスパーソンが学ぶべき点がたくさんあります。これが今回紹介したい「アナロジー（類推）思考」です。

生徒メモ欄

教員記入欄

私たちは物事を考えるときに、何か手掛かりを求めようとします。まずは、ズバリ答えを教えてくれる直接的なヒントはないかと。

それで見つからなかったら、似たような事例や関連のある知識はないか、間接的に役立つヒントを探索し始めます。原理やメカニズムを応用しようと考えるのです。これがアナロジー思考です。

皆さんは、日本人の食文化を変えたとも言うべき、大阪で誕生した3つの料理（食品）をご存じでしょうか。いかにも大阪らしいコストパフォーマンスが売りの料理ばかり。たこ焼きやうどんではありませんよ。答えは、インスタントラーメン、回転寿司、しゃぶしゃぶです。

実は、3つにはもう一つ共通点があります。いずれもアナロジー思考から生まれたものなのです。インスタントラーメンの製法は天ぷらから、回転寿司はビール工場のベルトコンベヤーから、しゃぶしゃぶは仲居さんが布巾をお湯で洗っている様から着想を得たと言われています。誰しも、アイデアが行きづまったときに、ふと見聞きしたことからヒントがえられた経験があるはず。たとえ話（比喩）をされると理解が深まるのも、原理は同じです。アナロジーを活用することで、思考の幅を広げることができるのです。

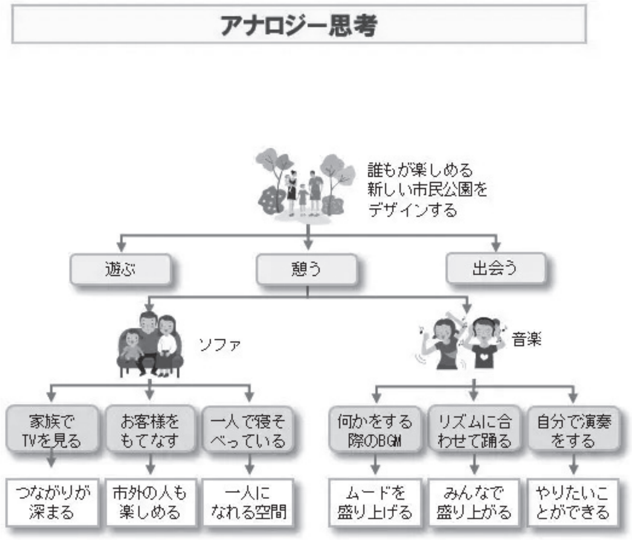
アナロジー思考の基本ステップを身につける

極端な話、アイデアに心底困ったら、目に入るものすべてからアナロジーが得られます。ただ、それでは当たり外れが大きいので、もう少し仕事に役立つやり方を紹介しましょう。

はじめに検討したい課題を設定します。たとえば、「誰もが楽しめる新しい市民公園をデザインする」といったように。

次に、その課題を達成することで、「何をしたいのか？」「何が得られるのか？」を考え、目的や本質を明らかにします。公園で言えば、「遊ぶ」「憩う」「出会う」といったキーワードに分解すると、後で考えやすくなります。

ここからがいよいよアナロジーです。「同じような原理・機能・働き・性質を持つものはないか？」「何かにたとえられないか？」を考え、発想のヒントとして使える対象を探していきます。「憩うだったらリビングにあるソファも同じじゃないか」といった具合に。



生徒メモ欄

教員記入欄

アナロジーの対象が見つかったら、「そこで何が起こっているか？」「どんな働きをしているのか？」を考え、原理や構造を明らかにします。最後に、それらを、課題を考える上でのヒントにして、アイデアを具体化していくのです。

これが、発案者・中山正和の頭文字をつけた「NM法」です。アナロジー思考を生かした発想法として有名なもので、システマティックに考えられるのが大きな利点です。

アナロジーは遠すぎず、近すぎず

アナロジー思考の最大のポイントは、「どんなアナロジーを持ってくるか？」です。

どんな事柄の間にも、関連を見つけようと思ったら、できないわけではありません。ところが、あまりに遠いと発想が追いつかず、共通点がなかなか見つかりません。

たとえば、「組織マネジメント」と「ソメイヨシノの開花時期」で、役立つアナロジーを得ることができるでしょうか（できたらイノベーティブな発想が生まれるかも！）。かといって、「組織マネジメント」と「団体旅行」では、あまりに近くて思考の幅が広がりません。

「組織マネジメント」「ミツバチの行動特性」といったように、一見遠いようでも意外な共通点がある。それくらいがちょうどよい加減です。

頃合いのよいアナロジーを見つけるには、見えない関連性や共通項を見つけ出す力が求められます。「類推力」（アブダクション）と呼ばれています。それを高めるには、右脳（直観）で考える、時には頭を緩める、俯瞰（ふかん）的に物事を見る、のがよいとされています。

蛇足になるかもしれませんが、アナロジー思考は、あくまでも新たな発想を得るための思考法です。言い換えると、ひらめきを得るためのものであり、そこに論理性はまったくありません。

たとえば、「なぜそうするのか？」と問われ、「高校野球でもやっていますから」「善は急げと言うじゃありませんか」とアナロジーやたとえ話を持ち出しても説明になりません。アナロジーで得た発想を相手に認めてほしかったら、適切な根拠を別途用意しなければなりません。他の思考法も同じですが、使いどころを間違えないようにしましょう。

堀公俊『甲子園で勝つチームは毎試合成長　アナロジー思考の力』日経電子版　2020年4月1日
https://style.nikkei.com/article/DGXMZO57312100X20C20A3000000)
日経の許諾を得ています。無断複写・転載を禁じます。

生徒メモ欄

教員記入欄

回答例を見てみよう

成長するチームが目標達成をするとき、アナロジー思考を活用して間接的にヒントを得る。その際、課題を設定し、課題達成の目的や本質を見出し、ヒントとなる対象から原理や構造を明らかにした上で、アイデアを具体化するという手続きを踏む。頃合いのよいアナロジーを見つけるにはアブダクションが求められるが、直観、頭を緩めること、物事を俯瞰することが良い。しかし、アナロジーには論理性がないので、適切な根拠が必要だ。

（200字）

生徒メモ欄

教員記入欄

第2講

資料読解問題の対処法② 読解問題

チャプター1 読解問題とは何か
チャプター2 読解問題の基本①部分説明問題
チャプター3 読解問題の基本②理由説明問題
チャプター4 読解問題の基本③字数調整

問題を見てみよう

筆者は国連のSDGインデックスの取り扱い方についてどうすべきだと指摘しているのか、またその論拠は何か、400字以内でまとめてください。
その際、原稿用紙の一マス目から書き始め、段落を分けないでください。

国連が目指す持続可能な開発の指標で、各国の達成度の評価が実情と違い過ぎる。地球上の誰もがスウェーデン並みの消費をすれば、生態系や環境への負荷は現在の3倍になる

　地球と人の未来を守るため、2030年までに達成すべき17の目標を掲げた持続可能な開発目標（SDGs）が国連で採択されてから5年。その実現に向けた「行動の10年」が始まっている。動植物を含めた「生き物の世界」と人間主導のグローバル経済の共存共栄に向けた具体的努力が問われるのだが、そもそも各国は今、どんな位置に着けているのか。
　それを知る指標として、よく用いられるのがSDGインデックスだ。米コロンビア大学の経済学者ジェフリー・サックスが考案したもので、SDGsの達成度を国ごとに評価する標準的なツールとして重宝されている。そのランキングを見ると、上位に並ぶのはスウェーデンやデンマーク、フィンランド、フランス、ドイツなどの豊かな欧州諸国。だが、本当にこれらの国はSDGs優等生なのだろうか。
　実を言うと、このインデックスは開発の持続可能性を測るものではない。このインデックスで上位に入っている国々の一部は、地球環境への負荷という点から見れば、むしろ最も持続不可能な状況にある。
　いい例がスウェーデンだ。SDGインデックスでスウェーデンの評価は84.7点と第1位。しかし世界中の生態学者が以前から指摘しているように、この国の1年間のマテリアルフットプリント（消費する天然資源の総量）はアメリカと同程度で、国民1人当たり約32トンに上る。これは世界でもかなり悪い水準だ。世界平均は現状で1人当たり約12トン。ちなみに持続可能なレベルは1人当たり約7トンとされる。

生徒メモ欄

教員記入欄

スウェーデンの現状は持続可能なレベルを5倍近く超えており、もしも地球上の誰もがスウェーデン並みの消費をするようになれば、世界中の資源消費量は年間ざっと2300億トンになる。これは現時点で全人類が消費している資源（言い換えれば地球の生態系や環境に与えている負荷）のおよそ3倍に相当する。

実態は開発優先、環境軽視

SDGインデックスで3位のフィンランドはどうだろう。フィンランドの二酸化炭素排出量は国民1人当たり年間約13トンで、石油大国サウジアラビア並みの水準だ。ちなみに中国の国民1人当たり二酸化炭素排出量は約7トンで、インドは2トンに満たない。世界中がフィンランド並みに化石燃料を消費したら、温暖化で地球は人が住めなくなる。

SDGs達成度ランキング

順位	国	スコア
1	スウェーデン	84.72
2	デンマーク	84.56
3	フィンランド	83.77
4	フランス	81.13
5	ドイツ	80.77
6	ノルウェー	80.76
7	オーストリア	80.70
8	チェコ	80.58
9	オランダ	80.37
10	エストニア	80.06

資料：Sustainable Development Report 2020

生徒メモ欄

教員記入欄

極端な例ばかりを挙げているのではない。英リーズ大学の科学者が発表したデータによると、SDGインデックスの上位の国々は資源消費量や温暖化ガスの排出量だけでなく、土地利用や窒素などの化学物質の環境への排出量といった点でも、人口比で各国に許容される範囲を大幅に超過している。

全ての国がSDGインデックス上位国のレベルで消費し、環境汚染を続けていくとすれば、地球の生態系は間違いなく、物理的に破壊されてしまう。

つまりSDGインデックスは、エコロジーの観点から見ればつじつまが合わない。それは事実と異なる錯覚を引き起こし、豊かな国は高いレベルの持続可能性を維持しているという間違った印象を与える。

どうしてそうなるのだろうか。SDGインデックスは国連の定めた17の「持続可能な開発目標」によって作られており、それぞれの目標には多くのターゲットが含まれている。点数の算出に当たっては最初にターゲットごとにデータを集めて達成度を評価し、それらの平均を求めて目標ごとの点数を出す（ただし国によっては必要なデータがそろわない場合もある）。そして、目標ごとの点数の平均値が国の点数となる。このプロセスは合理的に見えるが、実はそこに分析上の重大な問題が潜んでいる。

まずは評価項目の比重の問題だ。どの目標も3つの観点から評価されるが、観点ごとに評価項目の数が異なる。具体的にはエコロジカルな負荷（森林破壊や生物多様性の喪失など）、社会的な開発度（教育の充実や飢餓の解消など）、そしてインフラの開発度（交通機関や送電網の整備など）という3つの観点があり、ほとんどの目標はこの3つの組み合わせで評価される。だが現実には、必ずと言っていいほど開発関連の評価項目数がエコロジカルな負荷の評価項目数を上回っている。

例えば目標11（住み続けられるまちづくりを）には4つの評価項目があるが、3つは開発関連で、生態系への影響に関する項目は1つだけだ。つまり開発関連で高い評価を得れば、生態系への負荷が大きくても（つまり持続可能性が低くても）結果として点数は高くなる。

しかも17ある目標のうち、生態系の持続可能性を主眼とするものは4つ（目標12〜15）だけで、あとの13目標は開発に重点を置いている。つまりここでも、たとえ持続可能性の点数が低くても開発関連で点数を稼げば総合点は上がる。だから生態系への負荷という点では劣等生のスウェーデンやドイツ、フィンランドのような国が、SDGインデックスでは上位に来てしまう。

さらに、エコロジカルな負荷に関する評価の大半が国内だけを対象としていて、国境を越えた貿易の影響を考慮していないという問題がある。

例えば目標11の大気汚染に関する項目を見ると、概して富裕国の点数は高い。だが先進諸国は1980年代以降、汚染源となる産業部門の工場を次々と国外に移転させており、結果として汚染も国外に追いやっている。

森林破壊や魚の乱獲についても同じことが言える。こうした問題の多くは貧困国で起きているが、その原因は裕福な国々の過剰消費にある。途上国は先進国から環境破壊を輸入し、結果としてSDGインデックスの順位を下げているわけだ。

国連はSDGsの見直しを

インフラの整備などは、もちろん国内ベースで評価すればいい。しかし国内での消費による環境負荷を正しく評価するには、国外で生じた環境負荷もきちんと計算に入れなければならない。

それをしていないから、富裕国ほどSDGインデックスの点数が高くなり、彼らが国外でもたらしているダメージは見過ごされてしまう。これではいけない。いくら開発面で高い点数を得ても、地球環境に対して及ぼした破壊的な影響をそれで相殺することは許されないはずだ。

実はSDGインデックスの作成者側もこの問題には気付いており、評価手法に関する脚注で（簡単に）触れてはいる。だが結果として算出方法が見直されることはなく、環境負荷の問題

生徒メモ欄

教員記入欄

は軽視されたままだ。

　つまるところ、持続可能な開発の判定は地球規模で行うしかない。SDGインデックスで上位にランクされる国は、生態系の破壊をもたらすことなく実現できる開発のモデルを体現していなければならない。

　残念ながら現状はそうなっていない。裕福な国々がSDGsの模範として持ち上げられているが、リーズ大学の研究が示すとおり、現実には彼らこそ問題の一部なのだ。

　国連は今こそSDGインデックスを見直すべきだ。まずはエコロジカルな負荷を消費ベースで計算し、国外での発生分も考慮に入れること。そして環境への負荷と開発の成果を別々に評価し、それぞれの実態を正しく把握することだ。

　そうすればデンマークやドイツのような国々が開発面で達成したことを正当に評価しつつ、一方で彼らが国外で生態系の破壊を加速している実態を認識できるだろう。

　見直しが終わるまで、SDGインデックスなどに頼るのはやめるべきだ。地球環境の危機は深刻だ。いま地球にはどんな負荷がかかっていて、その責任は誰にあるのか。それをもっと正確に、もっと正直に示さないと議論は始まらない。

（ジェーソン・ヒッケル『SDGs優等生の不都合な真実　「豊かな国が高い持続可能性を維持している」という嘘』ニューズウィーク日本版　2020年10月8日）

生徒メモ欄

教員記入欄

回答例を見てみよう

SDGインデックスにおいて、開発関連の評価項目数がエコロジカルな負荷の評価項目数を上回っている。また、評価の大半が国内を対象とし、国境を越えた貿易の影響を考慮していないため、国内における消費による環境負荷を正しく評価できない。よって、富裕国ほどSDGインデックスの点数が高くなり、他国へもたらすダメージが見過ごされるゆえに、豊かな国は高いレベルの持続可能性を維持しているという間違った印象を与える。しかも、SDGインデックスの作成者側はこれらの問題には気付いているが、見直しはされていない。環境負荷の問題は軽視されたままだ。したがって、持続可能な開発の判定は地球規模で行う必要があることから、国連はSDGインデックスを見直すべきだ。エコロジカルな負荷を消費ベースで計算し、国内での発生分も考慮に入れること、環境への負荷と開発の成果を別々の評価し、それぞれの実態を正しく把握することが必要だ。

(395字)

生徒メモ欄

教員記入欄

第3講

論述問題の対処法

チャプター1 論述問題とは何か
チャプター2 論述問題の基本①資料読解
チャプター3 論述問題の基本②問題発生メカニズムの探索
チャプター4 論述問題の基本③答案の作成

問題を見てみよう

課題文をふまえ、これからの学校での学びに必要なことについて、1600字以内で論じてください。

もし、従来型の学習が必要なことを要領良く暗記する能力や、単純な知識の多さ、スピーディーで正確な処理能力を開発していたのであれば、もうすでにその役割は人間以外に移行しつつあります。とはいっても知識がまったく必要とされなくなるわけではありません。人間の担う役割が知識の量や詳細さではなく、知識の活用法に移行していくということです。ですから、学校での学びにおいても、知識を応用・転用し、活用する方法を身につける必要があります。

予測できない未来に対応することを目指すという文科省の方針は、東日本大震災やリーマンショックなどの災害や事件にうまく対応できなかった反省や、シンギュラリティに向かう数々の予測、日本が歴史上初めて人口減少社会へ突入したことなどに起因していますが、どれも一問一答型の教育の先に希望的な解決策が見えるものではありません。

「何のために勉強するのか？」という質問にうまく答えられないという教師や保護者は少なくありません。また、与えられた答えに納得がいかないという生徒も一定数います。そのままモヤモヤして自分で答えを探究していけば良いのですが、わからないままだとストレスになり、考えることをやめてしまう場合が大半に見えます。

一般的な回答としては「勉強をすれば良い学校に入学でき、良い会社に就職でき、お金に困らずに生きていけるから」というようなものです。

しかし、私のところにも毎年、「それなら、地位も名誉も財産も普通でいいから、勉強やめてもいいですか？」という生徒に困っているという保護者や先生方からの相談は絶えません。ここに今までの教育がハマってしまっていた「目的の混乱」という落とし穴があります。

そもそも、何のために学ぶのかという目的が現在のような形で混乱し始めたのは、明治維新からです。

これは、急激な西洋的価値観の流入や、帝国主義に向けた国策が影響していると考えられ

生徒メモ欄

教員記入欄

ますが、江戸時代までは多くの私塾において、学ぶ理由は「他者の気持ちをわかるため」とされていました。学ぶことで多くの人と共感できるようになり、その結果、頼られてリーダーシップを発揮し、地位も財産も得ることができるというものです。

　つまり、目的はあくまで他者への共感なのです。「より多くの人の気持ちをより深くわかるため」という目的であれば、本心から納得しない生徒はほとんどいません。近代合理主義が作り出した教育の構造のなかで、大人自体が目的の混乱を起こしてしまっていることが、感性の豊かな生徒たちの学びを疎外してしまっているともいえます。

　間違った逆算的発想が目的を混乱させてしまい、また正当な手順でないことも正当化してしまっていたわけです。自分なりの前提や論理があれば良いのですが、そうでないのにそう思い込んでしまっているのであれば、まさに思考停止状態といえます。

出典：石川一郎、矢萩邦彦，2019，先生、この「問題」教えられますか？　教育改革時代の学びの教科書，洋泉社
※問題作成にあたり一部の見出しを省略しております

生徒メモ欄

教員記入欄

回答例を見てみよう

　課題文において筆者は、人間が担う役割が知識量や詳細さではなく、知識の活用法に移行していくに伴い、学校での学びにおいても、知識を応用・転用し、活用する方法を身につける必要があると述べている。一方で、「勉強」の本来の目的は他者への共感であるにもかかわらず、目的の混乱が生じているという。近代合理主義が作り出した教育の構造のなかで、大人が目的の混乱を引き起こし、感性の豊かな生徒たちの学びを阻害していると筆者は指摘する。私はこの内容をふまえ、学校での「学び」の目的を明確化し、生徒の主体性を尊重することが必要だと考える。

　教育は知識を習得し、技能として再現することを主としてきた。しかしながら、学びに向かう目的が不明確な状況で、教科書の内容を理解し、大学受験に向かい合うための教育に終始するケースがある。「何のために勉強をするのか」という問いに明確な答えを示すためには、「他者への共感」「社会貢献」という目的をもち、学びが自己中心的なものではなく、社会全体のためにあることを強調することが重要となる。そして、学びを実生活や問題解決に応用できるような教育方法が求められる。

　こうした学びのなかで、生徒自身は学びの目的や方法を考える機会を増やすことができる。学ぶことの意味を自分でみいだし、内発的な動機が生まれることが期待できる。そして、教師も知識を教えるだけでなく、生徒の思考を促し、共感を育む存在としての役割が求められることになる。従来の教室のみならず、地域社会に出ることなど、多様な学びの場を提供することにより、生徒がさまざまな経験を通じて学びを深めることが可能となる。

　また、こうした学びを進めるなかで評価方法の見直しが促される。知識の暗記やテストの点数のみならず、生徒の成長や学びの過程を評価する方法を導入することにより、学びの質を向上させることができるようになる。特に主体性評価を行うことにより、生徒の知識および技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を測ることが可能となる。学びに対する生徒の主体性が評価され、尊重される方向に向かうことが期待できる。

　こうしたことを実現するには、教育方法の見直しが必要となる。例えば、生徒が地域の課題をテーマにプロジェクトを立案し、解決策を

生徒メモ欄

教員記入欄

考えるプロジェクト型学習、企業やNPOといった学校外での実地体験を行うフィールドワークやインターンシップ、教室内でテーマをもとにしたディスカッションを実施して生徒同士が意見を交換する機会を設けることなどが考えられる。学校内外の異なる視点を理解することにより、共感する力や批判的思考を育むことが可能となる。

学校現場においては、学校の教育方針を見直し、知識の活用や共感を重視する方向へシフトし、教師が共通のビジョンをもつことが求められる。また、教師の研修とサポートが必要となる。新しい教育方法やプロジェクト型学習に関する研究を定期的に実施し、教師が自信をもって実践できるように支援する。メンター制度を導入し、経験豊富な教師が新しい教師をサポートすることも考えられる。加えて、教師同士の連携を強化し、学年や教科を超えたチームでプロジェクトを進めたり、カリキュラムを柔軟に調整して生徒の興味や地域のニーズに応じたテーマを取り入れて実践的な学びを促進したりすることが考えられる。

加えて、評価方法の改革も考えられる。成果物の発表会やポートフォリオ評価を導入し、学びの過程を重視する評価方法にしたり、保護者や地域の人々も評価に参加できる仕組みを作ったりすること、また、プロジェクトや新しい取り組みの成果を学校内外で共有し、成功事例や課題についてフィードバックを得ながら、継続的な改善を行う。時に生徒の意見や要望を聞く機会を設け、彼らのニーズに基づいた教育を実践し、意見をまとめたり、評価軸の策定に参加させたりすることが考えられる。

(1600字)

生徒メモ欄

教員記入欄

第4講

表記・表現

チャプター1

原稿用紙の使い方

○ 原稿用紙の使い方NG例

小論文の書式には、原稿用紙のマス目が用いられることがあります。原稿用紙の使い方を誤ると、減点対象になったり、悪印象を与えたりする恐れがあります。小論文を書く前には、必ず原稿用紙の使用に関するルールを確認しましょう。些細なミスは、できる限り避けたいものです。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

表現・表記上の注意

○ 表現・表記上の注意

小論文を書く際には、表現や表記に気を付けなければなりません。表現・表記への気配りは、読み手の無用な混乱を防ぎます。また、あなたの意図を正しく伝えることにもつながります。一方で、表現や表記上の誤りは減点の対象となる恐れもあります。正しい表現・表記を心掛けましょう。

文章の長さ　O1

× 一般的な日本人像としては「集団主義的」「恥の文化」「道徳意識が高い」などがあるが、こうした見方で日本人という集団を捉えることは、日本人の国民性や日本文化の特性を理解し、行動原理を解明する足掛かりになる一方で、個人の特性を捉えるには不十分であるという指摘もあり、一般的な日本人像の多くは日本人の多様性を考慮したものではなく、必ずしもすべての個人に当てはまらない。

○ 一般的な日本人像としては「集団主義的」「恥の文化」「道徳意識が高い」などがある。こうした見方で日本人という集団を捉えることは、日本人の国民性や日本文化の特性を理解し、行動原理を解明する足掛かりになる。一方で、個人の特性を捉えるには不十分であるという指摘もある。一般的な日本人像の多くは日本人の多様性を考慮したものではなく、必ずしもすべての個人に当てはまらない。

呼応表現　O2

× 今まで経験してこなかった役割を担ってみたり、新しい経験や体験をしてみることが欠かせない。
○ 今まで経験してこなかった役割を担ってみたり、新しい経験や体験をしてみたりすることが欠かせない。

× なぜなら、すべて自分の思い通りにできるわけではなく、ときには自由なふるまいが他者の自由を妨げることもある。
○ なぜなら、すべて自分の思い通りにできるわけではなく、ときには自由なふるまいが他者の自由を妨げることもあるからだ。

誤りやすい漢字・送りがな・かな表記　O3

× 忙がしい → ○ 忙しい　× 短かい → ○ 短い　× 決っして → ○ 決して
× 価値感 → ○ 価値観　× 少しづつ → ○ 少しずつ　× コミニュケーション → ○ コミュニケーション

句読点　O4

× 心の豊かさとは、個人が、精神的に、満たされていて、余裕が、あるさまを、指す。
○ 心の豊かさとは、個人が精神的に満たされていて余裕があるさまを指す。

文末表現　O5

× 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となります。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないだろう。

× 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となります。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないでしょう。

○ 自らの正義に対して常に疑念を持つとともに、他者が持つイデオロギーや正義を一度受けとめることが必要となる。ときには、集団内の利益をもたらすのであれば変更することも考えなければならないだろう。

会話調の表現・略語　O6

× そんな、こんな → ○ そのような、このような　× 自分はこう思う → ○ 私はこう思う。
× 部活 → ○ 部活動　× 携帯 → ○ 携帯電話

表現技巧・無意味なカタカナ書き　O7

× 重要なのは、時代や社会に合った教養を身につける機会を積極的に生み出すこと。
○ 時代や社会に合った教養を身につける機会を積極的に生み出すことが重要だ。
× 大切なのではないか。人文・社会・自然の諸科学を分け隔てなく学び、それらを時代に合わせて活かしていくことが。
○ 人文・社会・自然の諸科学を分け隔てなく学び、それらを時代に合わせて活かしていくことが大切なのではないか。
×「これからどう生きるべきか」を考えることがホントに大切である。
○「これからどう生きるべきか」を考えることが本当に大切である。

O1 文章は短く区切る
文章が長くなると、主語と述語、修飾語と被修飾語との関係が曖昧になり、ねじれ表現(「重要なことは、気持ちが無ければならない。」など、主語と述語がねじれている表現)を生む原因となります。

O2 呼応表現は正しく使用
たとえば「なぜなら」と書き始めたら、「～からだ。」などといった表現を用います。「～たり、～たり」は、特に誤りが多い呼応表現です。また、呼応関係は一文中でのみ働きますので、文をまたいで使用することはできません。

O3 漢字表記などの誤り
漢字、送りがな、かな表現の誤りに気を付けましょう。また、漢字のあるものは原則漢字表記です。思い出せない部分のみ平仮名を使用した、漢字かな交じりの表現も適切ではありません。外来語の表記ミスにも注意しましょう。

O4 句読点の注意
句点(。)は文の終わりに打ちます。読点(、)は適切に打ちますが、打ちすぎたり、少なすぎたりしないようにしましょう。

O5 文体を統一する
小論文では敬体(です・ます調)を用いず、常体(だ・である調)で文体を統一します。

O6 会話調の表現・略語は用いない
「なので」「でも」「ちゃんと」「…じゃない」「お父さん」「僕」などは、会話調の表現です。それぞれ「このため」「しかし」「きちんと」「…ではない」「父」「私」などと書き換えましょう。ら抜き言葉(「見れる」「食べれる」「来れる」)なども使用しません。

O7 意図を正確に伝える
体言止め、倒置法、省略などの表現技巧を用いると、解釈を読み手にゆだねることになります。書き手の意図を正確に伝えることを目的とする小論文での使用は避けましょう。また、無意味なカタカナ書きの使用も、同様の理由で控えましょう。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

段落の設定

○ 論述問題の場合

	400字	800字	1600字
① 設問に対する意見	50字程度	150字程度	200字程度
② 意見を支える論拠	250字程度	150字程度（理由） 250字程度（背景→重要性）	200字程度（理由①） 200字程度（理由②） 250字程度（背景） 250字程度（重要性）
③ 改善策、展望、提案	100字程度	250字程度	250字程度（展望） 250字程度（具体的な提案）

生徒メモ欄

教員記入欄

○ 字数の増やし方

●曖昧な表現、抽象的な表現を詳細に示す（解像度を上げる）

（修正前）　貧困問題は、資本主義が引き起こすものである。

↓

（修正後1）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。

（修正後2）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。これは何人もビジネスの契機を得られる一方で、成功することも失敗することも許されることでもあり、後者に貧困が訪れるということを意味する。

（修正後3）　貧困問題は、経済活動の自由を重視することによって引き起こされるものである。これは何人もビジネスの契機を得られる一方で、成功することも失敗することも許されることでもあり、後者に貧困が訪れるということを意味する。その背景には貯蓄と利子を認めていること、仮にそれらを認めた場合に再配分の機能が弱くなる経済の仕組みが存在することが考えられる。循環する経済の理想は貯蓄や利子をなくして売買することであるが、貯蓄や利子を認めると資本家は貯蓄をもとに利子や利ざやを得ようとし、さらに資本が蓄えられることになる。実質的にその行為は労働者からの搾取とみなされ、貧富の差が生じることになる。そして、蓄積した資本を税制によって再配分する仕組みがあれば循環するが、それが機能不全に陥る状況となれば、事態は深刻になる。

生徒メモ欄

教員記入欄

○ 字数の減らし方

●重複表現や修飾語句の削減、熟語の使用、遠回しの表現（無駄のない表現にする）

（修正前）　私たちにとってパフォーマンスが高いチームの特徴としてまず考えられるのは、誰かが指示されることがなかったとしてもメンバー一人一人が考えて動くことができることである。このようなチームをつくるにはどのような心構えが大事になるのだろうか。

↓

（修正後1）　パフォーマンスが高いチームの特徴の一つは、指示なくメンバー一人一人が考えて動くことである。このようなチームづくりに必要な心構えは何か。

（修正後2）　パフォーマンスが高いチームの特徴の一つは、自律性である。このようなチームづくりに必要な心構えは何か。

（修正後3）　パフォーマンスが高いチームの特徴である「高い自律性」の養成に必要な心構えは何か。

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

引用の方法

書き込んでみよう

○ 引用の意味

他者の主張や研究成果（功績）に［　　　］を払うため、引用のルールを守る。
他者の主張や研究成果（功績）を盗んで自分のものにする行為を［　　　］という。
［　　　］は絶対にしないこと。
書き手がどこに書かれている主張や研究成果をもとに論じているのかを確かめることができるように、［　　　］を明記する。
引用するときは［　　　］［　　　］［　　　］［　　　］を用いたのかを、読み手にわかるように書く。

○ 直接引用

引用元の文章を［　　　　　　］用いる方法。

1. 短い直接引用
   「　」を使い、［　　　］の中に引用部分を直接入れる。
   引用部分の［　　　］に出典を明示する。
   〈表現例〉
   ・「引用部分」（著者，出版年，該当ページ）と定義される。
   ・著者（出版年）は，「引用部分」（該当ページ）と定義している。

2. 長い直接引用
   引用部分の［　　　］を一行ずつ空ける。
   引用部分を2文字程度［　　　］する。
   引用部分の［　　　］に出典を明示する。
   〈表現例〉
   本文……………**引用部分〜〜〜〜（著者，出版年，該当ページ）**本文……………。

○ 間接引用

引用元の文章を［　　　　　］する方法。

1. 自分の文章と間接引用部分が［　　　］できるように、
   引用部分の前後の［　　　　］を工夫する。
2. 引用部分の［　　　］に出典を明示する。
3. 著者の［　　　］を変えない。
   〈表現例〉
   ・著者（出版年）によれば，…という。
   ・………という先行研究がある（著者，出版年）。

○ 文献表

利用した［　　　　］をリストにしたもの。

1. 書籍の表現例
   ・著者（出版年）『著書名』，出版社
2. 論文の表現例
   ・著者（出版年）「論文タイトル」，編者『論文が収録されている書籍名』，出版社，該当ページ
   ・著者（出版年）「論文タイトル」，『論文が収録されている書籍名』，巻号数，該当ページ
3. ウェブサイトの表現例
   ・著者「ページのタイトル」ページのURL（ページ閲覧日）

生徒メモ欄

教員記入欄

おわりに

この講座では、大学を研究機関と捉え、事前課題小論文やレポートを作成してきました。これらを形にする過程で、志望する学部・学科にかかわる学びを得てきたのではないでしょうか。そして、専門領域の中で起こる問題や課題が見えたり、その学問の面白さに気づいたりしたのではないでしょうか。また、課題に取り組む過程で、アカデミックスキル（学問をするための技術）も学べたのではないでしょうか。

課題図書や論文を読み、理解し、あなたの意見をどう構築するのか、という営みは、大学では当たり前のように行うことです。ただ、実際にやってみると、それほど大変なことではないと感じたかもしれません。文献に示される一つ一つの事柄が新鮮で、いままで学んだことがないことに触れるたびに、知的好奇心がかき立てられることも多かったのではないでしょうか。

私はそもそも総合型選抜・学校推薦型選抜で合格者を輩出する表面的なテクニックを教えても、それは対症療法でしかないし、そこには私が存在する意味は見出せません。大学という機関が持つ本質は「研究」です。そこを真正面から捉え、「あなたはどういう世界を作りたいのか（未来創造）」とどう接続するのかを徹底的に考え抜くことが、大学に入学する者であれば最も大事なことです。大学、そしてこれまで先人たちが培ってきた学問を尊重し、さらに歩みを進めることが大事だと思っています。

そのように捉えると、この講座を受講する前のあなたと、今のあなたははるかに変わったはずです。取り組む前は、文章を読むのが苦手だったり、文献を探すのに時間がかかったり、慣れない学術用語に苦戦したりしたかもしれません。しかし、少し大変だったかもしれないけれど学問に向き合おうというマインドもスキルも備わったことでしょう。学問への入り口に立つことができた喜びを味わえるのは、事前課題小論文の醍醐味なのではないかと思います。

この経験はきっと大学での学問探究を支えることになりますし、もちろん総合型選抜・学校推薦型選抜でもあなたにとって大きな自信になるはずです。最後まで取り組んでくれたあなたは、あなたが持つ才能をもとに、きっと世界をつくる人になってくれると信じています。

この講座で養った実力をもとに、全力で事前課題小論文の答案作成に挑んでください。きっとあなたにとって素敵な学びとなることでしょう。私も、これからもあなたを応援します。これからもぜひ頑張ってください！

神﨑 史彦

小論文　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の面接回答案や実際の面接練習の様子と照らし合わせ、まずは自分なりに「このあたりはできている（できていない）」という評価をしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
設問の理解	出題の意図および背景の理解	設問内容の理解 ※ 課題文・データ等の 読解を含む	設問の内容を十分に理解して論じている。	設問の内容をおおよそ理解して論じている。	設問の内容に関する理解が不十分なまま論じている。	設問の内容を理解しているとは言いがたい論述である。	設問を理解しているかどうかが判定できない。
意見（主張）	設問と意見との関係	① 設問との形式的な呼応 ② 設問との内容的な呼応	設問に呼応する意見を示している。	設問に呼応する意見を示しているように見えるが、実のところ正しく答えられていない。	設問に関係するテーマで論じているが、設問に呼応していない。	設問に呼応する意見を示しておらず、設問に関係するテーマでも論じていない。	設問に対する意見を示しているかどうか、判定できない。
	独自性・独創性・発展性	① 自分なりに 意見を構築する姿勢 ② 意見の視点・手段の独創性 ③ 意見の視点・手段の発展性	意見に独創性があり、かつ提示している改善策や展望に発展性および具体性がある。	意見に独創性がある。	自分なりの考察をもとに、意見を示している。	意見を提示しているものの、一般論の受け売り、もしくは類似したものであり、自分で考察したものとは言いがたい。	意見が不明確であり、自分で考察しているかどうかが判定できない。
理由（根拠）	事実をもとにした論証	① 事実をもとにした論証 ② 主観を排除した 事実の取り扱い ③ 総括的な事実認識による論証 （断片的な事実認識の否定） ④ 深層的な事実認識による論証 （表層的な事実認識の否定）	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに、総括的・深層的な視点で論証を行っている。	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	できる限り主観を排除して事実を取り扱い、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	特殊事例や都合のよい事実をもとに論証しようとしている。もしくは断片的な情報での論証にとどまっている。	事実をもとに論証しているかどうか、判定できない。
	重要性・問題性	① 設問やテーマに潜む問題・ 課題の適切な理解 ② ①の重要性・深刻性の 理解と指摘 ③ 第三者や他分野への 影響を鑑みたうえでの 優先順位付けの有無	設問やテーマに潜む問題・課題を十分に理解し、それが様々な分野における影響を鑑みたうえで、他の意見と比べて重要・深刻であるという認識をしている。その上で、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	設問やテーマに潜む問題・課題を理解し、第三者にとって重要・深刻であるという認識のもと、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明しているが、その重要性・深刻性を理解して述べているとは言い難い。	理由説明をしているものの、自らの意見の重要性・問題性を論じているとは言い難い。	意見の重要性・問題性を論じているかどうか、判定できない。
論理性・簡潔性	適切な論理展開	① 論旨の逸れのなさ ② 論理の飛躍のなさ ③ 反論の余地のなさ	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることなく文章を展開している。かつ、反論の余地がない。	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることがほぼなく文章を展開している。かつ、反論の余地を極力回避している。	論旨が逸れている部分はないが、論理の飛躍があり、理由（根拠）が成立しない。	論旨が大きく逸れており、理由（根拠）が成立しない。	論理展開が判定できない。
	簡潔な記述	① 論旨に関係ない記述のなさ ② 冗長な記述の排除	論旨に関係ない記述がなく、言葉を吟味して、無駄なく文章を展開している。	論旨に関係ない記述がほぼなく、論理性に支障がないが、言葉の精選がなされていなかったり、内容が重複して無駄な記述が多かったりする。	論旨に関係ない記述があるものの、論理性にはほぼ支障がない。	論旨に関係ない記述があるために、論理性に支障をきたしている。	論旨に関係ない記述しかない。もしくは判定できない。

小論文　ルーブリック

●表記・表現

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	—	—	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が1つおよび2つある。	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が3つ以上ある。
	段落の設定	意味性のある段落構成	意味性を持って段落を区切っている。	—	—	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。
	制限字数	制限字数の厳守	制限字数の9割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	—	—	制限字数の8割〜9割未満である。	制限字数の8割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。
	文体の統一	常体の統一	文体を「だ・である」に統一している。	—	—	—	文体を「だ・である」に統一していない。
	表現技法	① 呼応表現 ② 句読点 ③ 文のねじれ ④ 主語・目的語・述語の明示 ⑤ 省略語・若者言葉	明らかな表現上の不備がない。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用)	—	—	明らかな表現上の不備が1つおよび2つある。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用)	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。(呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用)